

「2病院新用地で統合を」

県立西宮と西宮市立中央病院

「兵庫県立西宮病院 建設費の負担方法や、一宮市立中央病院のあり方検討委員会」は13日、西宮市役所で最終合意を開き、「両病院を統合し、新たな用地に新病院を整備すること」が最も望ましい」とする報告書案をまとめた。

2病院統合し新築

西宮 検討委が報告書案

県立西宮病院を増改築して集約する案や、両病院とも存続する案など4案を検討。統合した新病院を別の用地に建てる案が「診療機能の充実や医療従事者の確保などにメリットがあり、最も優れている」と結論付けられた。

課題として、新病院

H29.2/14(水)
神戸新聞(朝刊)

「させること」との注文を付けた。両病院統合の議論は、市立中央病院の老朽化などを理由に、西宮市側が要望してス文1ト。2015年2月には、市の外郭団体が識者ら11人が非公開で

新病院の候補地として、アサヒビル西宮工場跡地(津門大塚町)の一部を購入している。芳樹委員長は「高いレベルの医療を提供し、医師や患者があがれる病院になってほしい」と話した。

(前川茂之)

H29.2/14(水)
毎日新聞(朝刊)

西宮2病院「統合し新設を」

県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合問題が、さらに一歩前進した。検討委員会が13日、「両病院の統合、新しい場所での新設」が最も望ましいとする検討結果を発表した。結論を近く報告書にまとめ、県と市に提出する。

検討委(委員長 沢芳樹・大阪大医学部長)は、県市幹部や医師会関係者ら11人でつくる。昨年4月に発足。昨年11月の第3回会合までに次の4案に絞った。①統合し、新たな場所に新病院をつくる②統合し、県立西宮病院に機能を集める③経営のみ統合し、両病院を残す④統合しない。

県市の検討委 全会一致「新しい場所」に

第4回のこの日、検討委は全会一致で①案に同意した。理由について「診療機能の充実や医療従事者の確保など、病院として最も重要な項目でメリットがある」としている。沢芳樹委員長は会合終了後に会見し、「(新病院が)民間病院と役割分担しながら連携すれば、地域の医療レベルが上がるだろう」と期待を示した。

市は2015年2月、アサヒビル工場跡地(津門大塚町)のうち2・6haを、統合病院の建設候補地として市土地開発公社に先行取得させている。これについて沢芳樹委員長は「建設地については議論していない」としている。

(宮沢英彦)

H29.2/15(木)
朝日新聞(朝刊)

大病院の老朽化や耐震化への対応、県立西宮病院に心臓血管外科がない点などが、課題とされた。また、高度な処置ができる救急医療機関が阪神南地域に多いとして阪神北地域の医療体制を含めた議論の必要性も指摘された。

市立中央病院の機能を県立西宮病院に集約する統合案や、両病院をそれぞれ存続させたままで経営統合する案なども出た。だが、報告書案では両病院を統合した上で、新たな場所を整備する案

が、診療体制▽施設・設備の充実▽若手医師の確保――を期待できるとして評価。運営費も、併存させるより削減できるといっ。西宮市の外郭団体が、新病院候補地としてアサヒビル西宮工場跡地(西宮市津門大塚町)の一部を2015年に購入しているが、立地場所には言及しなかった。

会合後、澤委員長は「統合による合理化で、今までになかった役割を果たせる病院になれば」と述べた。

【田辺佑介】